

integral の部分がよくないのでBNL-325 2nd Ed. Suppl. No. 2 からデータを採用した。

- 作業の最終報告書を作成する前に、簡単なレポートを作りシグマ委員会内の報告会を行なう。また原子力学会においても発表する。

最終報告書の内容は、五部に分け

第1部 歴史的背景，原理的問題

Ⅱ コード

Ⅲ compilation of data の諸問題

Ⅳ 結果と問題点の指摘

Ⅴ 将来の方向

になる。

- 作業結果についての炉物理的チェックは、JPDR および関連研究室において行なう。また参加各社にデータのテープを作成して渡し、それぞれの系について各々チェックしていただく。

- シグマ委員会内部の報告会は、物理学会が10月中旬に、原子力学会が10月末に開かれ、桂木、高橋両委員が10月中旬に海外出張を予定されているため9月末もしくは10月初旬に行なわれるよう要望された。

3. JNDC Request List 作成作業の経過報告について(五十嵐委員)

炉定数作成作業の過程で出されたリクエストをベースにして、

非弾性散乱関係……………原研核物理第1ファースト・グループ

fissile 関係……………立花，岡本，五十嵐

electron volt 領域……更田，浅見各氏の分担により、

CINDA '65(1部CINDA '66)を参照し該当するものがあるかどうかチェックをしたのち、総合的に取捨選択した上でJNDC としてEANDC 向けのリクエスト・リストを作成することになった。

当面のリクエスト・リストの取り扱いについては、分担して検討してもらったものを9月5日までにまとめ、それを9月10日までにrequestor

と共に検討して refine する。該当者は、今までの関係者（注 第21回シグマ委員会議事録 P.7 参照）+（在原研）核データ・グループ委員ということになった。

なお、今回のリスト作成は、時間的制約のため、CINDA以上にさかのぼることが不可能であつたが、核データ・グループの会合において、このリクエストの問題は、EANDCにリストを提出するということとは別に、グループとしてかなりの蓄積をもつて、炉定数グループ等他グループからの要求を受けてゆくため、具体的にそのデータ蓄積の作業をより強力に推進しようという機運がたかまつてきたことが強調された。データの見方についても、この種作業をすすめてゆく上で炉定数グループと核データ・グループ間の相互理解が深まることが期待されている。このことに関連して公開討論会のようなものをもちたいという意見もあつた。

なお、関連して桂木委員より EACRP（ヨーロッパアメリカ炉物理委員会）の方でもリクエスト・リスト作成の呼びかけがあるが回答をいかにすべきか質問があり、この件については、シグマ委員会（JNDC）を通じて EANDC に提出したと報告すればよいということであつた。

4. SCISRS の利用について（主査、五十嵐委員）

SCISRS について五十嵐委員より紹介があつた。

- 現在 500,000 枚のデータ・カードのデータをマグネティック・テープに入れてあり、このデータ・カードは 200,000 枚/年の割で増加が見込まれている。
- データを要求して無料で入手できる。
- マスター・テープの副を日本として入手するということは、課題にあげられてはいるが、現在のわが国の機構では、テープの副があつても実際面で処理できる capacity が無い。

なお、SCISRS については、「JNDC ニュース No. 3」に紹介記事のせるとのことである。

5. その他

(1) CINDA '66 が1部入荷したむね報告された。シグマ委員会関係で
24冊近々入手予定なので利用いただきたいとのことである。

(2) ENEA-CCDN の67年の予算(主査)

66年度予算の30%増の要求がENEAのsteering committee
に提出されたが否決され再検討をしている段階である。データを各国需
要者に売って収入源とすることを考慮するようsteering committee
から勧告されたがこれは各国の協力を阻害するので採用したくないと
CCDN から答申があつたとのことである。

(3) IAEA 関係の会合について(主査)

i パリにおける核データ会議(10月17日-21日)

百田, 竹腰, 浅見が原研より出席する予定。

ii ウィーンにおけるIAEA-INDC(INDSWGが本年より常設委と
なつてINDC になつた)の会議(10月26日-28日)

主査が日本代表として出席する予定。

ここでは, BNL, CCDNおよびObninskの3大センターの機能を
有機的にまとめる話が議題になる見込みである。

(4) JNDC の予算(主査)

42年度予算として, 原子力局の査定で1,000万円のみが認められ,
運営費その他は全部削られている。

次回会合: 11月11日(金) 原研東京本部の予定。